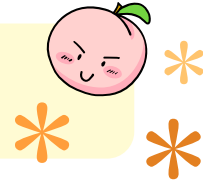


お月見のお話（中）



今年は、9月13日が十五夜です。十五夜には、団子とすすきをお供えしてお月見をします。お月見は中国から伝わり、平安貴族が月見の宴^{うたげ}を催して楽しむようになったのが始まりとされており、やがて庶民にもお月見が広がっていきました。

月は昔から農業に深く関わってきました。月は15日かけて新月から満月へと満ちていき、また15日かけて新月へと欠けていきます。人々はこの満ち欠けを見て、農作業をしていたのです。月のおかげで食べ物が育ち、収穫できることから感謝の気持ちとこれからの豊作を願って、団子やすすきをお供えし、お月見をするようになりました。

ではなぜ、お月見には団子やすすきをお供えするのでしょうか。それぞれに意味があります。団子は、丸い月のような形をしていますね。昔から丸い形は縁起が良いとされており、丸い団子を食べることによって健康や幸せになれると考えられていました。また、すすきは神様をお招きする目印となり、飾ったすすきを玄関につるすことで、一年間病気をしないとされていました。

今年の十五夜は、一年の健康や幸せを願って団子を味わいましょう。